



みどりの女神の 佐野加奈です！

本誌6月号で紹介したコンテナ苗はじめ、今植えられている多くの苗木は、林木育種の研究者が長い年月をかけて品種開発したものです。

今回は、苗木の優良品種を作る、林木育種のプロフェッショナル集団、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター（以下、林木育種センターという。）を見学させていただきました。

林木育種センターは、少花粉スギを含め、約2,000品種を開発しています。まさに「国内最大の林木育種機関」です。

特定母樹はエリート中のエリート

優良な個体（成長が早い、形質が良い、病気に強い、寒さに強い等）である「エリートツリー」の中から、これまでの樹木と比べて成長が1.5倍以上、花粉発生量が2分の1以下でないことと認定されない、「特定母樹」という貴重な親木が存在することを初めて知りました。

現在は、134系統が指定されているそうです。開発は本当に奥が深いです。林業を環境に配慮した強い産業に出来る基となるものであり、私も期待しています！

50年越しで研究されている品種があるとお聞きし、品種改良や管理の先端技術の高さや難しさを感じました。

世界をリードする技術

マツノザイセンチュウによる松枯れ被害対策として、抵抗性品種の開発は世界をリードする技術であり、海外にも技術移転した実績があります。また、被害を受けた我が国の海岸等にも植えられています。緑の松の復活を願うばかりです。

気が抜けない苗木配布

苗木の配布にあたっては、他の品種が混じることのないようDNA照合を行い、細心の注意を払っています。ここでの間違いは許されない重要なチェックであり、私も実際に白衣を着て体験させていただきました。がとても緊張しました。

世界の国々と連携して緑の地球を守る

ケニア、ベトナム、フィンランドなどの国々と連携して、林木育種の技術協力や共同研究に取り組んでいます。

ケニア乾燥地耐性育種プロジェクト（育種、増殖など）では、ケニアは森林率が7%と非常に緑が少ない国

ですが、毎年専門家を派遣し、研修員を受け入れる技術協力をする事で、乾燥地化や砂漠化を食い止めています。すごいプロジェクトです！いち早く緑になることを期待しています。国際的に日本の最先端の技術が広まっていることをとても誇りに感じます。

育種センターはすごい

世界に通用する技術が開発されている研究所で働いている皆さんは、美しく豊かな森林を未来につなげるための熱意を持って、研究に没頭されていました。見学した後、私の想像を超えるすばらしい研究とその姿勢に感銘を受け、誰かに話したい衝動に駆られ、しばらく興奮していました。皆様に林木育種センターを知ってもらおうと活動します。

PROFILE



平成6年3月23日、静岡生まれ。2015年ミス日本みどりの女神として活躍中！

佐野 加奈